

2025(令和7)年8月8日(金)～10日(日)

サマーフォーラムinきょうと

2025年9月発行

最終号
(第17号)

速報



第58回全国手話通訳問題研究集会

～平和と人権はいのち 仲間と共に京都から～

KYOTO TERRSA 京都テルサ

〒601-8047

京都府京都市南区東九条下殿田町70



<事務局>「第58回全通研～サマーフォーラムinきょうと～」実行委員会
〒610-0121 城陽市寺田林ノ口11番64
京都府聴覚言語障害センター気付
E-mail summerkyoto2025@kyoto-chogen.or.jp

ここから新たな歴史のスタート！～閉会式～



閉会式は、こども企画の報告で始まりました。3日間の子どもたちの活動の様子を動画で上映。「カレー作りが楽しかった!」「みんなで楽しく遊べたのがよかった!」と子どもたちの感想が紹介されました。

最後は、登壇した子どもたちがそれぞれに手作りした竹とんぼを会場に向けて飛ばしました。会場には、そうした子どもたちの生き生きとした姿に、涙ぐむ参加者の姿もありました。

主催者あいさつでは、連盟の河原雅浩副理事長が「日本人の故郷、手話の故郷と言える京都で、手話施策推進法が施行された年に集会が開催されたのは、何かの運命。手話施策推進法をツールにしながら、人権を守り、平和を守る共生社会に向けて、新たな歴史のスタートとしよう」と述べました。

全通研の渡辺正夫会長は「コロナ禍を経て1,000人を超える参加者を迎え、47都道府県すべてから参加があり、分科会には全33本ものレポートが提出された。素晴らしい内容で集会が成功したことを喜び合いたい。来年静岡で、また元気な顔で会いましょう」と述べました。

その後、デフリンピックのキャラバン活動と機関誌『手話通訳問題研究』のPRが行われ、開催地の引き継ぎがありました。



来年の開催地・静岡の鈴木誠一実行委員長が、参加目標を1,500人とすることを発表すると、それを受けた京都の吉田航実行委員長が、参加者に大会参加へのお礼を述べると共に、「京都の実行委員は全員、来年の静岡集会に参加することを公約します!」と宣言。会場に向けて「今、ここにいる皆さんも静岡集会に参加しますよね!?!」と呼びかけると、会場から大きな拍手が沸き、温かな余韻を残しながら集会は幕を閉じました。

みんな、😊
ありがとう！
仲間とともに
京都から！



聴覚障害者災害救援基金について

閉会式では、集会中に実施された、聴覚障害者災害救援基金のカンパについて、中間報告がありました。

最終集計結果は、**301,429円**となりました。

ご協力、ありがとうございました！

京都市長が集会を視察！

公務のご都合で開会式へのご臨席がなかった松井孝治市長が、集会2日目に会場を訪れ、D講座の志藤修史さんの講義を聴講。「聴覚に困難をお持ちの方々を取り残してしまいがちな課題の数々など、志藤さんの考察を拝聴して大変勉強になった」と自身のX(旧Twitter)で発信してくださいました。

お・ま・け

閉会式で吉田委員長は、開会式の日に着ていた靴下の色・赤と、閉会式の日に着ていた靴下の色・黄色の意味を説明。「赤は情熱。黄色はラッキー。幸運を静岡に引き継ぎます！」と話しました。